様式3

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学校番号 46

福岡県立城南高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

評価（総合）
A

学校運営方針	進取の気象を有し、明朗にして端正で、広く社会への貢献を志す有為な人材の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
＜令和3年度の成果＞ 〇生徒の学力向上に向けた新時制の実施(2年目）により、令和3年度の大学等合格実績は向上した。また、朝課外廃止により、生徒は時間的・精神的余裕をもって登校できるようになった。 〇教職員の働き方改革に向けた選択制勤務(2年目）の実施により、教職員のタイムマネジメント意識が高まってきた。 〇課題研究（ESD探究）や即興型ディベート等の学習活動を通じた多くの発表経験、生徒主体の進路学習「ドリカムプラン」の推進、第1志望を貫く進路指導の結果、国公立大学難関校の総合型選抜などで、令和3年度も合格者を多く輩出することができた。 〇SSH事業に関し、コロナ禍の中であったが、積極的な研究発表やオンラインによる学びなどを行うことができた。平成22年にSSHの指定を受けて以来、SSH12年目を終えることができた。 〇新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校に登校できない生徒たちに対し、オンラインによる学習支援を実施できた。また、文化祭や体育大会など学校行事について内容変更もあったが、2年生の北海道修学旅行を実施することができた。 ＜令和4年度に取り組むべき課題＞ 〇令和4年度からの新学習指導要領実施に伴い、新教育課程の検証や授業、課外・補習のあり方について改善し、観点別評価の実施と研究を深めることで生徒の学力充実を図る。また、教職員の働き方改革を推進し、働きやすい職場環境づくりと超過勤務時間数の縮減に努める。 〇オンライン教育を推進するため、ICT（ipad、クロームブック、プロジェクターなど）の一層の活用を行うとともに、生徒の個別最適な学びや協働的な学びを推進する。 〇課題研究（ESD探究）のテーマを、自らの進路選択に繋がるように設定することでより効果的な進路指導システムへとしていく。 〇新型コロナウイルス感染症など感染症拡大防止対策（マスクの着用、毎日の検温、3密を避ける）に継続して取り組み、生徒の身体面だけでなく心理面についても丁寧なケアに努めることで、総合的な健康維持を図る。	1 新学習指導要領への対応及び新時制の改善	ア 本年度から実施される新学習指導要領実施に向けた新教育課程の検証及び新時制の改善を図る。 イ 新学習指導要領実施に伴い、観点別評価の実施及び研究を深めることで生徒の学力充実を図る。 ウ 新時制をはじめとする本校の先駆的かつ多彩なプログラムについて、学校内外への広報を展開することで、本校教育活動への理解を深める。
	2 働き方改革のための選択制勤務の推進	ア 教職員の働き方改革を推進し、働きやすい職場環境づくりと超過勤務時間数の縮減に努める。 イ 働きやすい職場環境をつくるため、勤務時間を5パターンから選べる選択制勤務を推進し、業務の見直しやデジタル化による効率アップを通じて、教員のワーク・ライフ・バランスを図る。 ウ 選択制勤務について、勤務時間変更をQRコードを活用して行うなど、デジタル化と柔軟な対応を行うことで、教職員がより充実感をもって働けるように取り組む。
	3 効果と効率を高めるためのオンライン教育の推進	ア オンライン教育を推進することで、生徒の個別最適な学びや協働的な学びの実現など質の高い教育の実現を図る。 イ ICT（ipad、クロームブック、プロジェクターなど）の一層の活用により、効果と効率を高めるオンライン教育を推進する。
	4 進路学習と課題研究（ESD探究）の両立を図る「総合的な探究の時間」の改善	ア 生徒主体の学習活動や校内外の多彩な体験的プログラムを通して、「自らの人生を何に使うか」という使命を自覚し、それに基づいた進路の実現に向けて粘り強く行動することで、未来を切り拓く力を育む。 イ 教務部・進路指導部・SSH部が連携・協働し、学校設定科目「ESD探究」、「理数DS」、「理数ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」のカリキュラム改善を行う。
	5 様々な事態に対応できるレジリエンスの育成	ア 何事にも失敗を恐れず粘り強くチャレンジ精神と失敗から学ぶ心を持ち、どのような困難に対しても、しなやかに対処できるレジリエンスを育成する。 イ 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」精神を滋養することで、基本的生活習慣をしっかりと身に付けさせるとともに、自己管理能力を高めさせる。
	6 学校行事、ホームルーム活動、部活動などの充実	ア 学校行事やホームルーム活動、部活動などを通じて、生徒が自ら主体的に活動するとともに、共感的人間関係を培うとともに、自己決定の場面を通じて協働する力を醸成することで、社会へ貢献できる人財の育成を目指す。 イ 身につけた力を学校行事や毎日の生活で発揮させる。生徒会や各種委員会、部長会を有機的に連携・協働させ、学校生活での様々な課題に責任を持って取り組ませることで、課題解決能力を育成する。
	7 SSH、即興型ディベートの推進	ア Society5.0の到来に対し、能動的に学ぶ力を高めるとともに、批判的思考力や高度な課題解決能力を有し、解決に向けた実践力を発揮できる人材の育成を目指す。 イ 様々な教科・科目を関連させた即興型ディベートを展開する。
	8 感染対策を含めた安全・安心な学校環境の整備	ア 生徒が心身ともに健康的な日常生活を送ることができるよう積極的支援に取り組む。また、感染症に対する正しい理解と判断力を身に付けさせる。 イ 日常の清掃活動に積極的に取り組む中で、生徒が協働する力を養う。 ウ 心理的に不安を抱える生徒の状況把握と問題解決に向けての支援に取り組む。 エ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の整備など、特別支援教育の充実に取り組む。

評価項目			具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教育推進部門	教務	授業改善	授業改善とオンライン授業の研究・開発	新学習指導要領実施に伴う授業内容の見直し	A	A	A	観点別評価を実施することができたが、課題も多くみられたため、次年度以降修正・改善していく。さらに、次年度は電子教材の導入に向けての整備を行う。
				オンライン授業の研究と開発	B			
		観点別評価	観点別学習状況評価の実施と検証	観点別学習状況評価の実施状況の共有	B	B		
				考査問題の作問の工夫	A			
		業務内容の電子化	電子化の推進による働き方改革の推進	オンラインクラスルームの有効な活用	A	A		
				諸業務の電子化による業務の軽減	A			
	図書・庶務	情報活用能力及び批判的思考力の育成	読書の奨励と探究活動の促進	ESD課題研究や授業での利用奨励及び選書の実施	B	B	A	図書館利用の減少は課題として大きい。ブックマイレージ等の行事は継続するが、新たな図書委員会主催の読書会などを積極的に実施できるようにする。
				ブックマイレージコンクール等の活用及びイベントの見直し	B			
		表現発信力の育成	城南歌壇コンクール等における表現活動の推進	城南歌壇の実施と生徒・職員の積極的参加奨励	A	A		
				文化祭等での図書委員の活動の活性化	B			
		円滑な庶務処理	年度末・年度初めの諸業務の円滑化	適切な業務分担の実施	A	A		
				次年度への確実な引継ぎ	A			

学校関係者評価

評価（総合）
A

自己評価は

A： 適切である

B： 概ね適切である

C： やや適切である

D： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	新学習指導要領の導入に伴う観点別評価やICT活用などについて、継続的に取り組んでいる。授業を視察したが、ICTの活用が視察の度に活発になっている。学校全体でICTを活用した授業を推進してほしい。
A	ブックマイレージなどの魅力ある取り組みが効果的だと考える。スマホ時代の現代においても本の大切さは変わらない、図書委員会の活性化などをとおして生徒の「読書」活動を奨励していただきたい。

生徒育成部門	生徒指導	安全指導の徹底	・命の大切さを理解させる ・地域の模範となる生徒の育成	他者の人格を尊重し、周りに配慮できる人間力の育成	B	B	A	登下校については大半の生徒が安全に配慮して行動している中で、自己中心的な行動をとる生徒がいるのも事実であり、この実態を踏まえた安全教育や道徳教育が継続的な課題と考える。	A	先生方の粘り強い指導を評価している。制服の見直しなど時代に合わせた取り組みを行っている。しかしながら、生徒の自転車通学マナーについては課題が多い。交通規則の徹底を含め、入学直後や各学期始めの指導を重点的にお願いしたい。
				公共の場で社会規範を踏まえた行動をできる力の育成	A					
		生徒の主体的活動の支援	・行事や部活動への積極的参加 ・生徒会役員の育成と各委員会の活性化	学校行事や部活動を通じて自己有用感と自己肯定感を育成する	A	A				
				生徒会・部長会・各委員会を有機的に連携させる	A					
		支援の必要な生徒への指導体制つくり	・悩んでいる生徒への早期対応 ・面談を複数回実施	小さな変化を見逃さないようにし、面談等で信頼関係を構築する	A	A				
				アンケートの確実な実施と情報共有の徹底	A					
	保健管理	生徒の心身の健康維持	・感染症に対する正しい理解と行動力の育成 ・悩んでいる生徒への早期対応	感染症対策の継続実施、保健だよりの活用	A	A	A	感染症に対する意識（手洗い、咳エチケット、換気、健康チェック）を継続し持たせる。掃除道具の管理、道具を大切に扱う意識啓発を様々な場面で行う。	A	昨年に引き続き、こまめな消毒や定期的な換気など新型コロナウイルス感染症拡大防止に尽力いただいた。また、スクールカウンセラーによる生徒の心のケアについて、今後もさらなる充実を図っていただきたい。
				注意深い観察、面談の充実と保健室、SCとの連携	A					
		美化意識の向上	・日常の清掃活動の充実 ・委員会活動の活性化	積極的に取り組ませ、協働する力の育成	B	A				
				生徒会・整美委員会・HRを有機的な連携を図る	A					
		特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の整備	A	A				
				職員の共通理解を図る	A					
	進路指導	新学習指導要領・新入試に向けた学力の充実	新学習指導要領実施に伴う授業・課外授業のあり方についての研究と学力の充実	新学習指導要領に合わせた、新たな進路指導展開のあり方の改善	A	A	A	新教育課程に合わせた実力テストや模擬試験のあり方についての再検討が必要。また、それらの結果の分析の充実を図り、学年を越えた共有方法を整理する。	A	新学習指導要領に合わせ、新しい時代に適合した進路指導の在り方の確立が重要だと考える。進取の精神で城南高校のこれからの進路指導の具体的な方策を作り上げてほしい。
				3年間を見越した教科的な進路指導計画の見直し	A					
		「ESD探究」の改善と推進	進路学習と課題研究の両立を図る学校設定科目「ESD探究」のカリキュラム開発	学校設定科目「ESD探究」のさらなる改善、企画立案	A	A				
				外の世界を知り体験するためのプログラムを開発する	A					
		進路目標の明確化と粘り強い姿勢	高い志に基づく進路目標の実現に向けて妥協しない姿勢を有する生徒の育成	ゆるぎない第１志望の確立と、その実現に向けた粘り強い行動	B	B				
				学校推薦型選抜入試・総合型選抜入試に向けた適切な指導	A					
企画推進部門	広報	中学生に対する広報活動	本校の教育活動の様子や在校生の様子を具体的に発信することで本校の魅力を伝える。	感染対策を施し、実施可能な形態での中学生体験入学を実施する。	A	A	A	城南高校として、何を本校の特色として中学生や保護者にアピールしていくかということについて明確にする。	A	城南高校は、中学生や保護者から注目されており、学力だけでなく部活動やリーダー育成にも力を入れている学校である。学校の魅力を整理して、効果的なアピールの方法を工夫していただきたい。
				出前授業や学校説明会を積極的に引き受け本校の魅力を発信する。	A					
		中学生の保護者や学校関係者に対する広報活動	中学生の保護者や学校関係者に対して本校の教育活動を的確に発信する。	中学生進路相談事業を通して本校の教育活動の魅力を直接伝える機会を持つ。	A	A				
				学校案内を作成し本校の教育活動の魅力を伝える。	A					
		学習塾に対する広報活動	本校が求める生徒像を具体的に発信し志願倍率の向上をはかる	学習塾主催の学校説明会への参加を積極的に行い本校の魅力を積極的に発信する。	A	A				
				学習塾からの情報を聞き取ることで、受験生の動向の変化を把握する。	B					
	ＳＳＨ	課題研究を軸にしたカリキュラムマネジメントの進展	課題研究の指導方法に関する開発と授業における探究活動・協働活動の実践の増加	学校設定科目「理数ゼミ」及び「ESD探究」の開発内容の検討を行う。	A	A	A	研究倫理の教材や九州地区担当者交流会運営等、昨年度の課題はほぼ解決することができている。次年度は新教育課程に合わせたカリキュラムマネジメント表の作成が必要である。	A	先進的な授業や探究活動、興味深い実験など、他校にはない取り組みが充実している。これからも理数コースを含めSSHのさらなる充実を図ってほしい。また、学校の魅力を積極的に発信してもらいたい。
				授業実践の早期集約と教科間の内容連携の分析を行う。	A					
		開発内容の集約	指導法や研究論文等の成果物の冊子化を図る	理数ゼミに関する成果物（指導法・論文等）を冊子化する	B	A				
				研究倫理に関する教材を集約する	A					
		地域中核的な成果公表	九州各県を中心に生徒・教員の研修会を実施する	九州地区SSH校を中心とした教員研修会を実施する	A	A				
				近隣中学生に向けた理数コース体験講座を実施する。	A					
研修		職員研修の充実	本校の教育課題に即した職員研修の充実	各分掌等との連携による本校の課題に沿った研修の企画・実施	A	A	A	校内外の職員研修の機会をより充実させる。特に観点別評価・ICT活用の研修については積極的に取り組んでいく。各学年の人権教育プログラムも、より一層の改善を図る。	A	ICTの活用や新学習指導要領について、継続的に研修を行っており、今の時代に求められている教員の資質・能力の向上に取り組んでいる。魅力的な学校づくりにつながるよう、研修の充実に努めてもらいたい。
				ICT活用指導力向上のための校内研修を年間3回以上実施	A					
		授業改善の推進	ICTを活用した授業研究・改善の一層の推進	職員研修と併せ、各教科研究授業を実施し、情報・技術を共有	A	A				
				教育実習期間(１学期)・授業研究期間(2学期)の授業参観促進	B					
		教育プログラムの充実	社会参画の力を育む教育プログラムの充実	社会の流れに対応した本校の人権教育プログラムの改善・充実	A	A				
				１8歳成年を踏まえた主権者教育プログラムの推進	A					
学年部	第１学年	基本的生活習慣の確立	時を守り、場を清め、礼を正す行動を師弟同行で実践する	出席奨励および、相手の心を開く挨拶の励行	A	A	A	リーダー育成のために、生徒主導の場面をより多く設定すること。また、規範意識、帰属意識の涵養を通して、有形無形を問わず周囲を大切にできる人間力の育成が課題である。	A	先生たちがコミュニケーションを大切にし、生徒に寄り添う姿勢で指導していることを評価している。帰属意識や規範意識の育成は将来の社会人として大切な土台となるので、粘り強く指導をお願いする。
				生徒と共に清掃活動を実践することで、教育環境の整備を図る。	A					
		授業の充実と学力の向上	予習・授業・復習のサイクルの確立	充実した授業の実践および学習意欲の喚起	A	A				
				教室と部活動や生徒会との「放課後での学校の居場所」との両立	A					
		プロセスを重視した指導	挑戦や失敗に対して互いに認め合い、評価していく学年の雰囲気の醸成	校内外を問わず、挑戦する場の積極的な情報提供	A	B				
				成功や失敗の原因を考えさせる指導の実践	B					
	第２学年	基本的生活習慣の定着	自己管理能力の育成	出席奨励および礼節を重んじる心の育成	B	A	A	7:40登校奨励継続、人権意識の涵養を目指し礼節を重んじる生徒一人ひとりの伸長を目指す。最高学年として学校文化の継承を担い、第一志望の実現に邁進する力を育成する。	A	教員団が協力して学年全体で生徒を指導していただいている。その中で、修学旅行を工夫して実施できたことは生徒の成長の大切な機会になったと感じる。第3学年での活躍を期待している。
				自他を大切にし、集団や社会に貢献する精神の育成	A					
		授業の充実と学力の向上	授業の充実と学習習慣の定着	主体的な学びを育む授業の実践	A	A				
				学習到達度に応じた指導の充実	A					
		進路意識の育成	将来や社会を見据えた志の育成	進路行事を通じた広い視野と進路意識の育成	A	A				
				進路希望の早期明確化	B					
	第３学年	学力の向上	進路実現に向けた学力の向上	授業、放課後課外、補習を効果的な実施と推薦総合型入試の奨励	B	A	A	生徒各個人が主体的に学校生活に没頭し、自らの能力を一つ一つ向上させようとする粘り強い姿勢を養う工夫をする。情報共有と意思疎通を通して学年全体に切磋琢磨する雰囲気を醸成する。	A	コロナ禍により、第3学年は入学時から様々な学校行事が制限されてきた。その中で、教員の継続的な指導のおかげで、学校行事でリーダーシップを発揮し、学年が一丸となて進路実現に取り組めたことを評価する。
				主体的に学習に取り組むことができる学力分析と情報発信	A					
		主体性の向上	主体的に考え実行に移す行動力の向上	部活動、学校行事等でリーダーシップを発揮できる環境整備	A	A				
				何事にも粘り強く取り組む姿勢を育む助言	A					
		信頼の構築	学年団、生徒、保護者との信頼関係の構築	進路実現を可能にする強い意志を育るための面談	B	A				
				様々な場面において教科指導力と生徒指導力を教員が発揮すること	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

新学習指導要領にもとづき、観点別評価の全面的な導入及びICTを活用した授業改善を推進する
学校行事や様々な教育活動をとおして生徒の主体性を育むとともに、自己と他者を大切にできる人間力を育成する

評価項目以外のものに関する意見

時代の変化を感じている。10年後の城南高校に向け改善充実を図ってほしい。